



日高市長 谷ヶ崎 照雄氏

市長のメッセージ

日高市は首都近郊に位置しながら、手軽に山登りが楽しめる日和田山や、秋には500万本の曼珠沙華が咲き誇る巾着田などの高麗郷一帯を「遠足の聖地」として、子どもから大人まで多くの皆さんにご来訪いただいております。

そして本年、市制施行30周年を迎えるとともに、「第6次日高市総合計画」をはじめとして、さまざまな計画がスタートしました。本市の新たな将来都市像である「誰もが安心して住み続けられる ふれあい清流文化都市 日高」の実現に向けて、今後もスピード感を持ち、魅力あるまちづくりに「誠心誠意」取り組んでまいります。

はじめに

日高市は、埼玉県の南西部に位置する東西約11km、南北約6km、面積47.48km²のまちである。東部はなだらかな台地で武蔵野の面影が色濃く残る市街地、西部は秩父山地と高麗丘陵の山地・丘陵地帯で、丘陵と台地の間には高麗川が流れている。

市の東側に圏央道と国道407号、西側に国道299号が走り、県道川越日高線がこれらを結んでいる。鉄道はJR八高線とJR川越線、西武池袋線が乗り入れ4つの駅がある。

1955年に高麗村と高麗川村が合併して日高町となり、翌年に高萩村を編入し、現在の形となった。1991年10月1日に埼玉県で42番目の市として日高市が誕生し、本年、市制施行30周年を迎える。

自然と歴史の魅力にあふれる「遠足の聖地」

日高市は自然と歴史の魅力にあふれている。市内を流れる高麗川は埼玉県を代表する清流であり、カワセミやトンボ、水生生物などを観察できる。この高麗川の蛇行により長い年月をかけて作られたのが巾着田。形がきんちゃくに似ていることからこう呼ばれている。直径約500メートル、面積約22ヘクタールの川に囲まれた平地に、桜や菜の花、アジサイ、コスモスなど四季折々の花々が咲き、なかでも秋の曼珠沙華は、辺り一面を真紅に染め、まるで赤い絨毯を敷き詰めたようである。毎年多くの人がその美しさに惹かれて訪れている。

ハイキング、山登りで親しまれている日和田山(表紙写真)は、埼玉県立奥武蔵自然公園内に位置する標高305メートルの小高い山。山頂へ向かうルートは、緩やかな傾斜の女坂や岩場のある男坂など、いろいろな登り方が楽しめる。山頂に近い金刀比羅神社からは、巾着田を一望できるとともに、遠く東京スカイツリーや新宿の高層ビル群、筑波山、富士山、奥多摩や奥秩父の山々が一望できる。

現在の日高市を中心とする地域は、かつて高麗郡と呼ばれていた。奈良時代の716年、東国7カ国に住む高麗人1,799人をこの地に移し高麗郡が建郡されたと伝えられる。高麗郡が置かれた当時のリーダー高麗王若光こまのこきしじゃっこうを祀る高麗神社、その墓のある聖天院、江戸時代末期から明治初期に建てられた高麗郷古民家など、歴史を今に伝えるものが多く残っている。

日高市は2017年4月、「遠足の聖地」の宣言を行



巾着田に群生する曼珠沙華

日高市概要

人口(2021年3月1日現在)	55,204人
世帯数(同上)	24,338世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	48.8歳
面積	47.48km ²
製造業事業所数(工業統計)	144 所
製造品出荷額等(同上)	2,222.3億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	287店
商品販売額(同上)	851.0億円
公共下水道普及率	59.6%
舗装率	55.8%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR八高線 高麗川駅
JR川越線 高麗川駅、武蔵高萩駅
西武池袋線 高麗駅、武蔵横手駅
- 圏央道 狭山日高ICから市役所まで約8km

い、「遠足の聖地プロジェクト」をスタートした。豊かな自然と歴史的遺産が多く、毎年100校以上の学校が遠足に訪れているが、さらにより多くの人に訪れていただけるよう、巾着田を中心とした高麗郷一帯の整備、PRを行っている。

※小中一貫教育と英語教育の充実

日高市では、小中一貫教育が令和2年度からスタートした。9年間一貫した教育内容のもと、体系的な教育を目指すもので、児童生徒が安心して学ぶ環境を整えることにより、学力向上や中1ギャップの解消などが期待されている。また、市内6地区は、それぞれ小学校、中学校、公民館があることで一体となって学校や地域の課題に対応するなど、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりが進むことが期待されている。こうした点も踏まえ、高萩小学校校庭東側に新高萩公民館(兼出張所)を建設する計画が進んでいる。学校近くに地域の核となる施設があることで、学校と地域のつながりが一層強まることが期待されている。

また、新事業として令和3年度から中学2年生を対象に英語によるコミュニケーションへの興味・関心を高め、国際交流への意欲を高めることを目的に、海外現地校との交流や英語指導助手と一緒に英語のみの環境で海外生活を疑似体験できる「海外留学疑似体験事業」を実施するなど、英語教育にも力を入れている。

※進むまちづくり

日高市は都心から約40kmと東京への通勤圏にあり、昭和40年代から50年代にかけ複数の団地が建設されるなど、ベッドタウンとして発展してきた面がある。圏央道の狭山日高IC、圏央鶴ヶ島ICに近く、高速道路ネットワークを利用できることから、多くの工場、大型物流センターが立地している。

現在、住居系、産業系とも土地地区画整理事業によるまちづくりが進められている。武蔵高萩駅北地区では、駅前広場、都市計画道路、公共施設の整備改善により都市機能の向上と潤いのある住環境の整備が進んでいる。この地区の北、旭ヶ丘地区では、35ヘクタールの産業系の土地地区画整理事業が進められており、企業立地や雇用の創出が期待されている。

日高市は自然に恵まれ、歴史のまちであるとともに、産業面でも優位性を持っており、今後バランスの取れた発展が期待されている。(吉嶺暢嗣)



土地地区画整理事業が進む武蔵高萩駅北地区